

横浜市立大学学術情報センター

貴重書 月替わり展覧会リーフレット (164)

2025年5月の作品は

え どめいしょず え
『江戸名所図会』

展示テーマ
～江戸名所図会～

江戸時代、巡覧の便のため、寺社・旧跡の由緒来歴や街道・宿駅・名物の案内などに、実景を描写した多くの挿絵をそえた名所図会が多く発刊された。特に『江戸名所図会』は、斎藤月岑^{げっしん}（1804～1878）によって書かれた概説だけでなく、長谷川雪旦（1778～1843）による緻密な挿絵が高い評価を受けている。

今回は『江戸名所図会』の跡をめぐり挿絵に描かれる江戸時代の様子と現在の街並みを比べることで、過去と現在とのつながりを感じてみようと思う。過去から変化した点や、逆に変わることなく続いているものなどを実際に見ることで、時代の流れを感じたり、不変なものを感じたり、そういう楽しみ方ができると思う。

『江戸名所図会』は全7巻20冊という大作であるため、今回は横浜市立大学学術情報センター所蔵の9巻を厳選して紹介する。



『江戸名所図会』（全20冊）

江戸時代後期、天保5(1834)年、天保7(1836)年

作者：斎藤月岑(1804～1878)

縦 26.5cm × 横 18.3cm

この作品は天保5(1834)年と同7(1836)年に書かれた『江戸名所図会』である。全7巻20冊からなり、江戸時代後期以降の江戸の名所を紹介している。当時、各地の名所を紹介する「名所図会」が盛んに出版されており、それらに大変関心を持った斎藤月岑が、祖父と父によって編集された『江戸名所図会』を刊行した。数ある「名所図会」

の中で『江戸名所図会』を選んだ理由として、挿絵の綺麗さを強調したい。長谷川雪旦によって描かれた挿絵は、細かい部分まで繊細に描かれており、文字では書き表すことのできない景観がよく読み取れるのである。そのため今回は文章ではなく、この挿絵に注目し、『江戸名所図会』を見ていこうと思う。

展示のみどころ

～江戸時代と現代の繋がり～

(1) 『江戸名所図会』9巻 ^{よつやごずてんのうやしろう}「四谷牛頭天王社」



挿絵の下にある坂を登り参道に入り、その先に鳥居と拝殿、本殿があることがわかる。参道の右には「かぐら所」、左には「別当」がある。

『江戸名所図会』の本文には、祭神は素盞鳴尊^{すさのおのみこと}で、別当は宝蔵院である旨が書かれている。四谷牛頭天王社は、現在須賀神社と呼ばれている。建物や人々の様子が鮮明に描かれており、名所図会の最高峰と言われる所以がよくわかる一場面である。また



(出典：<https://www.travel.co.jp/guide/article/29137/>)

この須賀神社は映画「君の名は。」の重要なシーンに登場したことから映画の聖地巡礼という意味もあり、今でも多くの観光客が訪れる。

左の写真は映画『君の名は。』のラストシーンやキービジュアルの舞台になった須賀神社男坂である。映画でも画像の画角から階段が描かれており、多くの人が須賀神社を訪れた際、こちらの写真を撮るといふ。江戸時代の名所図会に記されている場所が、現代

でもこうして名所として親しまれていることは、どこか運命的なものを感じるとともに、当時から江戸を観光資源として捉えていたという点でも、『江戸名所図会』の江戸を捉える視点が優れていたことがわかる。

(2)『江戸名所図会』9巻 深大寺蕎麦^{じんだいじそば}



深大寺蕎麦は、江戸時代、土地が米の生産に向かなかったため小作人が蕎麦を作って、蕎麦粉を深大寺に献上しそれを寺側が蕎麦として打ち、来客をもてなしたのが始まりといわれている。東京都調布市にある深大寺周辺で作られるそばとして

知られており、江戸時代の名残を感じることができる。



左の写真は、現在深大寺の周辺にある蕎麦屋の写真である。

(出典：https://chofu.com/aoki_ya)

参考文献・参考 URL

- 川田壽(1990).『江戸名所図会を読む』. 東京堂出版
- 鈴木棠三/朝倉治彦(1975).『新版江戸名所図会』中巻. 角川書店
- 「トラベル.jp」<https://www.travel.co.jp/guide/article/29137/> (最終閲覧 2024 年 12 月 4 日)
- 「公式青木屋深大寺店」https://chofu.com/aoki_ya (最終閲覧 2024 年 12 月 2 日)

あとがき ～貴重資料に触れて～

貴重資料を実際に手に取って読むことは、この先二度とないチャンスだと思うので非常に貴重な経験をさせていただいて嬉しいです。書物から時代の流れを感じるとともに、現代につながる発見もあり非常に興味深かったです。歴史というのは暗記科目や史料や文面からしか学ぶことができないと言われることもありますが、こうして史料の中の世界と現在の世界を比べることがつながりや変化を実際に感じられて、歴史というのが親しみやすくなると思いました。学ぶことが楽しいということが皆さんに伝わったら嬉しいです。ここまで読んでいただきありがとうございます。

コレクションの閲覧は、作品保護のため、展示品を除き申請が必要です。また利用は学術研究目的に限らせていただいております。

※過去の展示はオンラインでも公開中です！

※第165回展示は令和7年6月上旬からを予定しています。



令和7年5月7日発行
令和6年度 日本文化論B受講生 編集
236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
横浜市立大学 学術情報センター